



わだち

広報誌 第26号

(2025.4.1)

〒982-0845

宮城県仙台市太白区門前町2-1

電話 022(746)8461 FAX 022(746)8462

<https://www.miyagi-kendo.com>

一般財団法人 宮城県剣道連盟

第19回 宮城県少年剣道講習会

令和6年12月15日(日) 会場 名取市民体育館



目次

ご挨拶

宮城県剣道連盟会長ご挨拶	P 2
宮城県剣道連盟理事長ご挨拶	P 2
第19回宮城県少年剣道講習会	P 3
高体連／小牛田農林高等学校	P 8
中体連／聖ドミニコ学院中学校	P10
居合道部会	P12
杖道部会	P13
令和6年度専門委員会活動報告	P15

特集 生涯剣道

小野喜代男先生宮城県最年長で七段合格	P18
生涯剣道稽古会にてAED研修	P19
宮城野区剣道連盟 剣道キャラバン隊活動報告	P21
令和6年度中央審査会	P22

こちらのQRコードを読み取ると
宮城県剣道連盟ホームページが
ご覧になれます。



挨拶



一般財団法人

宮城県剣道連盟

会長 井上 雅勝

日ごろより、本連盟の運営などにご理解、ご支援を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

令和六年度は、会員皆様のご協力の基、新型コロナウイルス感染症もほぼ終息し、通常通りの活動に全力を傾けてまいりました。お陰様で、例年以上に事業などを活発に実施することができました。しかしながら依然として、剣道人口減少・少子高齢化や部活動の地域社会への移行、そして財源確保など難しい課題への対応が残されています。

また、県内外の稽古会・大会・講習会や審査会などは以前にもまして、多くの皆様が参加され目覚ましい成果を納めております。日々の積極的な取り組みに感謝いたします。その中で本連盟副会長兼理事長の高橋昭博先生が昨年十一月の審査会において、みごと八段に昇段されました。心よりお祝いを申し上げますとともに、これまでのご努力に敬意を表します。さらに、八月に青葉体育館で実施されました六・七段審査会には、全国よりそれぞれ八〇〇名に近い受審者が集まり、本県より多数の合格者が誕生

いたしました。引き続き本年度も審査会が実施されますので、奮ってご参加されますようご案内いたします。他にも居合道・杖道を含めた各領域にて多くの好結果を残すことができました。改めてご活躍にお祝いを申し上げます。

新年度はアメリカにトランプ大統領が誕生するなど、混沌とした情勢となりそうですが、本連盟は「巳年」にあやかり、これまでの慣習にとらわれることなく脱皮した飛躍の年になりたいと思います。社会情勢などを見極め「剣道実践の場の確保」を最優先に、多様化するニーズに応えるべく各自の目的に応じた修練に専念できるように努めてまいります。そして、一つ一つの活動を丁寧に行い『剣の理法』に見合った活動になればと考えております。ご協力の程、よろしくお願い致します。

結びに、会員の皆様が、ますます剣道にご精進され躍進の年になることをご祈念申し上げ、甚だ簡単ですが、ご挨拶に代えさせていただきます。



一般財団法人

宮城県剣道連盟

副会長兼理事長

高橋 昭博

令和六年度は、感染症や気候等の影響もありましたが概ね計画通りに事業を展開できました。会員皆様のご理解とご支援のおかげであり心から感謝を申し上げます。特に八月に本県で開催された剣道六段・七段審査に於いて、本県受審者の合格率は、六段42%・七段26%というかつてない高いもので素晴らしい結果となりました。このことは各稽古会や大会等にも好影響を与え、県内全体の活性化につながったと感じています。七・八年度も本県での開催があり多くの方が合格されますよう祈念しております。

一方剣道人口減少という大きな課題はさらに厳しさを増しています。全剣連・本県アンケートでは始めるきっかけのほとんどが親族の勧めであり大人の愛好者の数がそのまま子供への剣道人口につながるものとなっております。いかに生涯剣道の仲間を増やしていくかが問われているところです。我々自身が剣道を奥深く求め、楽しむことが大切だと思います。

心法、刀法、身法の修行により気剣体一致の見事な一本を目指し、そ

の修行の成果として人間形成へと導かれる事を改めて認識したいところです。子供も大人も男女にも拘らず互いが真剣に剣先を合わせ対峙することで共に成長することにつながると思っています。

また、中学校では、部活動地域移行が進行します。部活動は一度廃部になると復活は見込めません。やりたいと思う子供たちが、やれる環境を作り、剣道を通して子供たちを育てていくことは我々の務めであり喜びでもあります。そしてまた、多世代の愛好者がこれに参加することで地域の活性化になると思っています。皆様の積極的な関与を切に願います。

令和七年度も、全剣連ガイドライン等に沿った対策を基本に、安全・安心のもと、稽古や大会、審査や講習、加えて社会体育指導員講習の本県開催など、充実した奥の深い剣道の普及と強化に努めてまいります。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い致します。



第19回 宮城県少年剣道講習会

日時: 令和6年12月15日(日) / 場所: 名取市民体育館



小学五・六年生を対象とした第十九回宮城県少年剣道講習会が、令和六年十二月十五日(日)名取市民体育館にて開催され、宮城県内各地の少年剣道五十三団体、二百二十六名もの剣士が参加しました。

今年度の講師は、警視庁第六機動隊に勤務し、第十九回世界剣道選手権大会 女子個人優勝、第六十三回全日本女子剣道選手権大会優勝という輝かしい成績を収めた近藤美洸先生です。

開会の挨拶では、宮城県剣道連盟井上雅勝会長から、「警視庁の近藤先生にお忙しいところお越しいただきました。すばらしい成績を収めた先生ですので、世界一の技を学んでほしいと思います。寒い中ではありますが、しっかりと頑張ってください。」とお話がありました。

閉会の挨拶では、同連盟佐藤悦朗副会長から、「大変充実した素晴らしい講習会になりました。みんなも近藤先生にならい、諦めない気持ちを大切にしながら、夢や目標の実現に向けて頑張ってください。」とお言葉をいただきました。



第19回 宮城県少年剣道講習会

一 開会式

(一) 開会挨拶

宮城県剣道連盟

井上 雅勝 会長

(二) 講師紹介

幼少年普及委員会

千葉 弘勝 委員長

(三) 受講生代表「歓迎の言葉」

尚武殿一森山道場

及川 蒼介さん

近藤先生、今日は遠い所からお越しいただきありがとうございます。本日の講習会を我々一同とても楽しみに待っていました。近藤先生のご活躍や戦績はテレビやYouTubeなどで拝見しています。特に十一月三日に行われた第六十三回全日本女子剣道選手権の決勝戦での気迫あふれる攻めや打ちは、私たち

	練習内容	○練習上の注意事項
	(1)準備運動 ○元気よく声を出して。	
	(2)発声練習	
素振り	(3)素振り ①前進後退面 (50本・100本) ○しっかりと構える。 ○大きく振りかぶる。竹刀が後ろに倒れないようにする。左手の握りが緩むと竹刀が後ろに倒れるので、構えた握りのまま上げる。握りを変えない。 ○声をしっかり出す。 ○振り下ろして手首を使う。肩、肘、最後に手首と意識する。 ○左手が自分の胸の高さになるように振り下ろす。 ②左右面素振り (50本・20本) ○しっかり構えた状態から振りかぶる。 ○左手が自分の胸の高さになるように振り下ろす。 ③腰割り素振り (30本・20本) ○足を肩幅に広げる。つま先を少し外に向けて、つま先の方に膝を曲げる。 おしりを後ろに出したり、腰を反ったりしない。 ○振りかぶりをしっかりして、振り下ろしは竹刀が床と平行になるように。一気に速く下ろす。 ○振り下ろしと同時に膝を曲げ、振りかぶりと同時に膝を伸ばす。 ○しゃがむのではなく、膝は90度くらいに曲げる。 ④速素振り (20本・20本・60本) ○左手の握りをしっかりする。 ○まっすぐ振り下ろす。 ○足さばきをしっかり。ジャンプしないように。 ○1本1本相手を打つイメージ。	 
足さばき	(4)直線の足さばき ①速いすり足 (2往復) ○左足を継がない。右足を追い越さない。右足のつま先を上げない。 ○剣先を上下にぶれさせない。構えの姿勢のまま。 ②後ろ向きのすり足 (1往復) ○腰を引かずに、構えた姿勢のまままっすぐ下がる。 (5)円の足さばき ①∞すり足 (20秒×2) ②右回り (20秒) ○細かく足をさばく。左足が右足を追い越さないように。 ③左回り (20秒) ④間合いをとった足さばき (2人1組で1分×2) ○手拭いの両端を、それぞれ竹刀を持つように握り、張った状態になるように相手と合わせて円のすり足をする。1人は右回り、相手はそれに合わせて。 ○試合では相手の動いたところに動く場面がある。試合でも生かせる動き。	 
切り返し	(6)切り返し ①1本ずつ (2往復×2) ○素振りの姿勢と同じ。左手の握りを変えない。振り下ろした左手が自分の胸の高さになるように意識。 ○相手は竹刀で防いでいるが、相手の面を打つつもりで、手を伸ばして打つ。 ②速く (2往復×2) ○相手の右面・左面をしっかり打つつもりで。 ○最初の気合をしっかりと出す。最後の面は出し切って打つ。	

技の練習	(7)面打ち ①連続打ち (5本×3) ○気合を出して、すり足で間合いに入る。 ○大きく振りかぶって打つ。 ○抜けるときに相手を避けない。相手の右足を踏むように打つ。 ○抜ける瞬間のスピードを速く。左足で床を蹴るように体を押し出し、同時に左足を引き付ける。速く引き付けないと左足が跳ねてしまう。 ②大きく (3本×2) ○遠間から気合を出して攻める。 ○左足を引き付ける。 ○打ちを強く。 ③小さく (3本×4) ○物打ちの先で打つのではなく、物打ちの中間くらいで打つ。 ○打った後の体の寄せを速く。右手を相手の顔にぶつけるような勢いで。 ○打った後右に流れてしまう場合は、左手の場所が体の真ん中になっているかを確認する。左手が胸の高さになるように。	
(午前の部終了)		
(8)体操・素振り (前進後退面 30 本)		
切り返し	(9)切り返し ①近藤先生の実演 (面を打たせる切り返し、速い切り返し) ②1本ずつ (2往復×2) ○竹刀が後ろに倒れないように、左手をしっかり握って振り上げる。 ○1本1本意識して止める。 ③速く (2往復)	
技の練習	(10)面打ち ①近藤先生の実演 (大きい面) ○左足でしっかり体を押し出し、素早く抜ける。 ②大きく (10本、3本) ③近藤先生の実演 (速い面) ○気合をしっかり出す。 ○間合いに入るときに相手の中心を取る。 ④速く (3本×2) ○中心を取ってから打つ。 ○構えているときは力を入れない。打ちが軽くなってしまう。打つ瞬間だけ力を入れる。 ○左足はしっかり体を押し出す。 (11)小手打ち ①近藤先生の実演 (速い小手) ○まっすぐ振り上げてまっすぐ振り下ろす。 ○小手を打った後の体を速く寄せる。 ②速く (3本) ③近藤先生の実演 ○小手打ちの音をよくするために、竹刀のどこで打つかを考える。先革に近いところで、小手の肘に近い方を打っている。手首はあまり音が鳴らない。 ○元立ちの受け方が悪いとしっかり打てない。相手に見えるように開ける。 ④速く (3本×2) ○竹刀を刺すように使うのではなく、振って打つ。 ○音がよくない人は、自分の振り方や竹刀のどの部分で打つかなど、いろいろ試してほしい。	

技の練習	(12) 小手面打ち ① 近藤先生の実演 (速い小手面) ○ 小手をしっかりと打つ。 ② 速く (3本×2) ○ 左手は力を入れておくが、右手は小手を打つ瞬間に力を入れ、一瞬力を抜いて、面を打つ瞬間に力を入れる。ずっと力を入れていると打ちが軽くなってしまう。
	(13) 出端技 ① 近藤先生の実演 (出端面) ② 出端面 (3本×2) ○ 速く攻める ③ 出端小手 (3本×2) ○ しっかり攻めて打つ。 ○ 顴や拳に当たったり、袖に引っかかったりしている人は、次の1本で考えて修正する。 打った場所を確認する。どうやったら一本になるか考えながら練習することが大切。
	(14) 面の応じ技 ① 近藤先生の実演 (面返し胴) ○ しっかり攻める。 ○ 来るところを前で受ける。受けたら右斜め前に体をさばく。試合のときは大きく右方向に移動するといい。 ② 面返し胴 (3本×3) ○ 受けた後、竹刀を回して打つと間合いが近くなりすぎる。前で受けて前で打つ。 ○ 胴を打つときは左手を離さない。右手側に左手をスライドさせて打つ方法もある。 すれ違う瞬間に左手を緩めると抜けやすい。自分のやりやすい方法を考える。
	(15) 小手の応じ技 ① 近藤先生の実演 (相小手面) ○ 力が入っていたら打てない。攻めて相小手を打ったら、一瞬右手の力を抜き、面を打つときに再度力を入れる。 ② 相小手面 (3本×3)
	(16) 打ち込み (2回) 面・小手面・面・小手面・面
稽古	(17) 指導稽古



を参照。

(一) 午後の部
稽古内容は、別ページ「練習内容」を参照。

※準備運動後の基本稽古(素振り、基本打ち)は、別ページ「練習内容」を参照。

(二) 午前の部
二 講師指導による基本錬成

剣士の憧れです。初太刀に決めた出頭面は気迫が伝わってくるかっこいい面でした。近藤先生の剣道講習会に参加できることに感謝し、今回の稽古会をこれからの剣道に生かせるよう、努力することを誓います。本日はどうかよろしく願います。





佐藤 悦朗 副会長

宮城県剣道連盟

(三) 閉会の挨拶
は、ありがとうございます。

近藤先生、本日はお忙しい中、私たち宮城県少年剣士のためにご指導くださり、ありがとうございます。先生にご指導いただくときは緊張しましたが、とてもためになる稽古でした。今日教えていただいたことを一生の宝物として、これからも剣道を続け、剣道をしている人間として恥ずかしくないように日々稽古します。今後も機会がありましたら、ご指導よろしく願います。今日は、ありがとうございます。

七郷少年剣道クラブ

佐藤 かのんさん

(二) 受講生代表「お礼の言葉」

三 閉会式
(一) 講師講評(近藤 美洸先生)
ご縁があつて宮城県に来させていだいて、今まで人に何かを教えることをしたことがなかったけれど、みんなが元氣よく一生懸命やつてくれたので、私も一生懸命教えられました。やるときはしつかりやるということとを頭に入れて、これからも頑張つてほしいと思います。



第19回 宮城県少年剣道講習会

● 少年少女剣士より

Q 小学生のときから勝てましたか？

A 小学生のときは全国大会に2回出たが、1回戦で負けてしまっていました。

Q 剣道を始めたきっかけは何ですか？

A お兄ちゃんと一緒に道場に行つて、やりたいと言いました。お母さんに、「途中でやめないならやればいいよ」と言われました。

Q プレッシャーがあるときは、どう対応していますか？

A プレッシャーはあまり感じたことがありません。試合のときは、今の自分の持っているものを全部出そうと思って試合をしています。

Q 剣道を始めて身に付いた力は何ですか？

A 技術はもちろんです。人に対して敬意を持ったり、あいさつができたようになります。

Q 大会で一番使った技は何ですか？

A 面が多いです。

● 広報委員より

Q 座右の銘は何ですか？

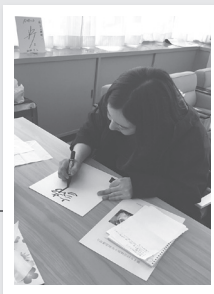
A 「諦めない」。世界選手権に出場するときに、神奈川県警の高橋萌子選手と一緒に決めました。

Q 全日本女子剣道選手権は、今回初めて、男子と同日・同会場でテレビ中継もありましたが、どんな気持ちで臨みましたか？

A あまり意識していませんでしたが、会場に入ると、女子だけの例年の大会とは雰囲気の違いがありました。女子だけの大会の方が緊張しました。

Q 尊敬する方は誰ですか？

A 両親です。もともと剣道をしていませんでしたが、父が10数年前に剣道を始め、現在五段に挑戦中です。両親は、自分が負けたときでも常に応援してくれる、ありがたい存在です。ずっと励ましてくれています。



こんどう みひろ
近藤 美洸先生に

質問コーナー

Question and Answer

● 少年少女剣士の感想

- 教え方が分かりやすかったです。
- 間合いの取り方が分かってよかったです。
- 教えてもらったことを、自分のためになるようにしたいと思います。
- 素振りの仕方がよくわかりました。
- 足を使うことの大切さがわかりました。
- 細かいことも教えてもらえました。
- いつもの稽古より深く教えてもらえました。
- 全国一の先生にいろいろ教えてもらえてうれしかったです。技がすごかったです。
- 5年生なので、近藤先生と稽古ができなくて残念でしたが、他の先生方に稽古をつけていただき、うれしかったです。
- 基本の稽古が充実してできました。今後の稽古に生かしたいです。

● 団体指導者の感想

- また一味違う剣道を間近で見ることができて、とても勉強になりました。



こんどう みひろ
近藤 美洸先生

六段 1993年6月22日生

〈神奈川県川崎市立塚越中学校〉

〈神奈川県桐蔭学園高等学校〉

インターハイ 個人 準優勝

〈法政大学〉

インカレ 団体 優勝

〈警視庁 第六機動隊〉

全日本女子剣道選手権大会 優勝

全日本女子都道府県対抗優勝大会 優勝

世界剣道選手権大会 個人 優勝

高体連

All Japan High School Athletic Federation

「高校三年間」



小牛田農林高等学校 千葉 啓 選手

私が、剣道を始めたのは小学校二年生です。

きっかけは、兄が剣道をしていてカッコいいと思い始めました。

中学校では、全国大会出場を目標に稽古に励みましたが、予選敗退という結果に終わり悔しい思いをしました。その敗因としては、技術面の他に心の弱さでした。団体戦で、大將が負けたらチームが負けるという状況で、大將だった私は、緊張によって、普段より体が思うように動かず、結果一本負けをして全国大会出場という目標を叶えることができませんでした。その悔しい思いから、高校は、小牛田農林高校に入学し、剣道部に入部しました。自分よりも強い先輩方との稽古は、とても刺激になり、私も強くなって選手として試合に出て、活躍したいという思いが日に日に強くなっていきました。

先生からのご指導で「小さな事でいいから、昨日より何か一つでも進歩できるように努力しなさい。みんなができることをみんなができないくらいやりなさい。」と教えられ、その日から、家で毎日素振りをするようになりました。昨日より今日、今日より明日と、前日よりも素振りの本数を増やしていきました。そのおかげで打突が強くなり、

振りが早くなっているのを、錬成会や大会を通して実感することができ、毎日の積み重ねが大切なことに改めて気づくことができました。

三年生になり、私は部長を務めました。私の役割として、特にチーム力の向上に気を配りました。勝った時はみんなで喜び、負けた時はその敗因を一緒に考え、日々の稽古に取り組みました。

辛いこともあった三年間でしたが、中学校で叶えることができなかった全国大会に出場することができました。顧問の先生をはじめ、一緒に戦ってくれた仲間、OB・OGの先輩方、父兄の方、本当にありがとうございました。



高体連

All Japan High School Athletic Federation

「全国への挑戦」



小牛田農林高等学校 儀間 彩希 選手

一年生の県総体は、選手に入る事ができず、非常に悔しい思いをしました。三年生が引退し世代交代となり、一・二年生は五名しかおらず、団体戦は自動的に選手になりました。新人戦は高校生になって初めての試合で緊張し、自分の力を出しきれず予選敗退。個人戦でも二回戦敗退で、自分の弱さも実感しました。次の県総体までの約六ヶ月間の練習は、自分の限界に挑戦し技術力、精神力の向上に励みました。先輩方の力により県総体で優勝し、インターハイの舞台に立つことができました。結果は、一勝一敗で予選敗退。全国のレベルの違いを実感しました。自分達には何が足りないのか研究したり、何度も全国を経験している先輩からアドバイスをいただいたりしながら練習を続けました。

先輩が引退し、自分達の代がきて、私はキャプテンを務めることになりました。先輩のように指示をしたり、まとめたりするのですが、上手いかず悩む日が多くありました。しかし、仲間の支えがあり、新人戦は男女ともに団体優勝することができました。全国選抜大会では、九州の強豪にあたり、自分の剣道ができないほどの力の差がありました。それからは、チームで勝つことを一番に考え、練習終わりにミーティングなどをし、チームワークの向上を目指しました。私はチーム一人一人の特徴や癖を見つけ、アドバイスをするようにし、個人の力も向上させていきました。県総体は一本を大事に繋ぎ新人戦に続き男女で団体優勝することができました。インターハイで勝つため更に練習に励み、自分達の力を出しましたが、予選敗退となりました。

私たちが何度も全国に挑戦することができたのは、小牛田農林剣道部にしかない良き伝統とたくさんのOB・OGの方に稽古をつけていただいたおかげだと思います。関わった全ての方に感謝し、全国で負けた悔しさを忘れず、これからも全国に挑戦していきたいです。





All Japan Junior High School Athletic Federation

「第54回全国中学校剣道大会 男子個人 敢闘賞」 「第54回全国中学校剣道大会 女子団体戦 ベスト16」



聖ドミニコ学院中学校



蟹澤 結介 選手

「剣道を通して学んだこと」

私は、東北・全国大会に出場し、沢山のことを学びました。目標に向かって切磋琢磨できる仲間がいること、共に練習し一緒に戦ってくださった先生方がいることは当たり前のことではないのだと感じました。自分が取られた一本で代表戦になったり、大将に勝負がかかる状態になった時がありました。なので、来年はさらに強くなって自分が取った一本でチームを勝利に導ける選手になります。そして、来年は日本一になります。

小笠原 杏莉 選手

「仲間について」

私は全国大会で、男子個人ベスト8という結果を残すことができました。男子剣道部は、あと一步で全中を逃してしまい、心残りがありました。しかしそんな中でも個人戦の際に全力で応援してくれる仲間がいたお陰で自分の力を発揮することができました。仲間だけではなく、監督としてついてくださった先生方や保護者の方々にも心から感謝しています。来年は、高校生になるので次はインターハイで優勝できるよう頑張ります。

蟹澤 結介 選手

「感謝」

私は、今回仲間や先生方と共に全国大会という大きな舞台に立つことができました。

全国の舞台に立てるには、予選を勝ち抜いた一チームのみなので、宮城県の代表として感謝の気持ちで竹刀を握り、一生懸命戦いました。

ここまでこれたのは、日々一緒に練習してきた仲間、御指導してくださった先生方、支えてくれた保護者の皆さんのお陰です。心強い応援をありがとうございました。

橋本 倅 選手

「東北・全国大会で学んだこと」

私は、東北・全国大会の副将として出場しました。大会では、予選リーグを突破することがとても大変でした。そして、一本の重みを改めて感じさせられました。結果は、悔しさが残りましたが、女子剣道部七人全員で出場することができ、とても嬉しかったです。三年生が引退し、これから新しいチームがスタートします。来年も、東北・全国大会に出場し、良い結果を残せるよう感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。

佐々木 りく 選手



東北大会にて

「感謝について」

私は、一年生で全中の舞台に行けたことがとてもすごいことだと思っています。私は、補欠として全中に出場しました。そのとき、先輩が一生懸命戦っているのを見て、私も先輩方のようになりたいと思いました。今回、全中に出場できたのは、決して当たり前のことではなく、先生方や保護者、周りの方々のサポートがあってからこそ様々な大会や練成会に参加できるのだと思います。これからも優勝目指して精一杯頑張ります。

蟹澤 心陽 選手

「感謝」

私は市中総体から全国大会出場までの間、周りの方々に応援していただいたり、仲間からたくさん助けてもらいました。その中で一番感謝したい人は先生方と仲間です。

先生方には、技術面だけでなく日常生活の大切さを教えていただきました。

そして、どんなときも仲間と協力し心をつなげるから大きな舞台に立てるのだと実感しています。これからも感謝の気持ちをもって頑張ります。

堀江 葵咲絆 選手

「私の経験」

私は、今回次鋒で全国大会に出場しました。試合は緊張しましたが思いきって技を出すことができました。二年生でこの舞台に立つ経験ができたのはたくさんの方の支えがあったからです。ここまで辛いこともありましたが指導して下さる先生方、保護者、そして応援して下さる方々がいてくれたから諦めずに戦えました。このチームを一人で引っ張ってくれた先輩を勝たせてあげられなかった悔しさを全国優勝という結果で晴らします。

千葉 桃佳 選手

「一勝・一本の大切さ」

私は、県大会・東北大会で一勝・一本の大切さを学びました。どんどん勝つのが難しい大会になってきている中で先輩たちは一勝・一本を繋いで試合を積み重ねている姿が印象に残っています。

このような経験が、一年生でできたこと本当によかったと思うと同時に、全中優勝を目指すためにたくさん教えてくれた顧問の先生方や応援して下さった保護者の方々に感謝しています。

高橋 和花 選手

居合道部会



令和六年度 居合道部会活動について

居合道部会は県内各地域の二十
六団体が加盟しており、多くの会
員が日々居合道の修練に励んでお
ります。今年度の主な活動について
報告いたします。

合道大会を開催いたしました。猛
暑の中、選手は日頃の修練の成果
を発揮すべく真剣に試合に臨みま
した。

- 一、段位審査会
 - ◇第一回段位審査会
初段～五段合格者（計十九名）
 - ◇第二回段位審査会
初段～五段合格者（計三十二名）
- 一、全国審査会
 - ◇七段合格者（計二名）
狐塚 理沙・佐藤 博志
 - ◇六段合格者（計二名）
半田 洋一・木村 民男
 - ◇錬士合格者（計三名）
鈴木 宏明・犬飼恵梨香
石塚 裕明
- 一、宮城県居合道大会
令和六年八月二日（日）
〔松島町B&G海洋センター〕
宮剣連 井上雅勝 会長より御
挨拶を賜り、第五十二回宮城県居



一、東北居合道大会【派遣】

令和六年九月十四日（土）

〔伊達市伊達体育館〕

第五十二回東北居合道大会が開催されました。八月四日（日）の代表選考会で選ばれた、四〇七段の各段二名、計八名が、本県代表として出場しました。

◇段別個人の入賞者

監督 関根 俊久 錬士七段

四段の部 田口 大樹（第三位）

三段の部 中川祐里江（第三位）

一、全日本居合道大会【派遣】

令和六年十月十九日（土）

〔東京武道館〕

第五十九回全日本居合道大会が開催されました。八月四日（日）の代表選考会で選ばれた、五〇七段の三名が、本県代表として出場しました。

監督 庄子都代子 教士八段

助監督 村上 和繁 教士七段

◇都道府県対抗試合

七段の部 松本満知子（二回戦）

六段の部 渡邊 王志（三回戦）

五段の部 星野 和巳（二回戦）



一、居合道中央講習会・地区講習会

令和六年七月二十日（土）

・二十一日（日）

〔仙台市 本山製作所〕

青葉アリーナ

第五十一回居合道中央講習会・地区講習会を本県で開催しました。開催にあたり、宮剣連からの御指導に感謝いたします。主に東日本の各地域から約六百名が参加しました。本県では、村上和繁教士七段と松本満知子教士七段を派遣し、後日伝達講習会を実施しました。

一、強化稽古会、特錬会、および六・七段受審者講習

本県の居合道のレベル向上および六・七段審査会の合格を目的として、計十三回実施いたしました。

今年度、各種大会や全国審査会の結果から、本県の着実なレベル向上を実感できた一年でした。令和七年度はさらなる高みを目指し、

宮剣連井上会長を始め、役員の皆様の御指導の基、居合道部会員一同一層精進して参ります。

末尾ながら、居合道部会では、居合道の普及と会員拡充のため、ポスターの作製、ホームページの充実等、情報の発信に力を入れております。次のQRコードをお読み取りいただき、当部会のホームページを御高覧いただければ幸いに存じます。

執筆者

居合道部会広報部

石塚 裕明



杖道部会



福島県福島市での講習会の様子



宮城県武道館での講習会の様子

令和六年度 杖道部会活動報告

令和六年度杖道部会活動報告を、月ごとに事柄を述べて行きます。

令和六年五月二日は京都で京都大会が開催され各種の形、杖道に七組十四人が参加を致しました。

同年五月二十五日(土)～二十六日(日) 福島県福島市でこの講習会では本県の先生方が講師として任に当たりました。

六月には当部会主催の講習会・審査会を二十二日(土)～二十三日(日)に開催しました。

講習会には二十五名の参加があり、受講者には全剣連杖道解説書に基づく基本動作、形を行い正しい姿の確認をし無事終了する事が出来ました。

二十三日には審査会を行いました。

全剣連杖道段位審査規則・細則並びに同実施要領に即した段位審査を行い受審者全員が合格しました。

同時に岩手県からの委託審査も行いました。

八月には広島県広島市で全剣連の中央段位審査会・中央地区講習会

が開催され本県から講習会には七名が参加致しました。

十月には京都府京都市で第五十一回全日本杖道大会が開催され当県より三段、六段、七段に三組六人が出場致しました。

この大会では七段、準優勝の成績を残すことが出来ました。

令和七年一月には全剣連中央・地区審査会が開催され通例通り行われました。

令和七年三月は当部会の講習会を行います。

来年度の五月には第二十七回東北剣道連盟主催杖道講習会が本県で開催されます。

剣連事務局の皆様のご協力を仰ぎながら進めて参りたいと思います。

いまだコロナやインフルエンザなど疫病流行が繰り返すなか何とか諸行事を行うことが出来ました。これも県剣連の指導によるものと感じています。

今後とも県剣連のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いをして、令和六年の活動報告とします。 以上

令和6年度専門委員会活動報告

総務委員会



総務委員長

都留 城太郎

委員長 都留城太郎
副委員長 鈴木 浩文
委員 江俣 和代／栗木 一博
奥寺 良／工藤孝太郎

現在、総務委員会は高橋昭博理事長に活動・議論の方針のご意見を頂きながら、6名の委員で活動しております。

「県剣道連盟活性化に向けた対応策」について議論を重ね、県連への提言としてまとめることが活動の趣旨です。

近年は、剣道人口の減少が喫緊の課題となっております。

子供たちが何かスポーツを始めようという時に剣道が選択肢の一つとなること、一度は剣道から離れたものの大人になってから剣道を再開しようと思っている方、大人からでも剣道を楽しもうという方々が気軽に稽古できる場所について協議して

参りました。

また、中学校の部活動においては、これまで中学校の先生方が担ってきた部活動の指導を地域のクラブ・団体などに移行することが進められております。その際に指導者不足の問題などがあり、小学生の頃に剣道を始めた子供たちが、剣道を継続できる体制の構築が課題だと考えております。

剣道人口減少に歯止めをかける、または増加に転じることを目標とした提言ができるよう、議論を重ねて参ります。

広報・情報委員会



広報・情報委員長

保志 綾子

委員長 保志 綾子
副委員長 小野寺恵子
委員 茂林 友紀／柴田 隼人
菅井 龍成／浅川 芳直
佐藤 恵

武道愛好者の皆様には、広報・情報委員会の活動にご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

本委員会の主な活動を報告させていただきます。

まず、宮城県剣道連盟HPの管理に努めております。大会・審査会・講習会・稽古会・居合道部・杖道部・関連団体情報などを発信しております。また、「はじめよう！剣道」として、剣道の歴史・お子さんから高齢者の方々への剣道について情報や、プランがあった方へ再スタートのアドバイス他興味ある話題を掲載しております。ご覧になる際は、表紙にあるQRコードもしくは宮城県剣道連盟HPで検索してご覧になれます。また、ご質問がございましたら、お問い合わせフォームからご意見をご送信ください。

次に、広報誌「轍」の発行を担当致しております。小学生は主に少年剣道講習会の様子を報告しています。中学・高校生は中・高体連報告より掲載しています。それぞれの部門において、輝か

しい結果を残されました選手の皆さんに感想を書いて頂きました。皆さんの言葉から大きな力が頂けることと思います。また特集として、生涯剣道をテーマに執筆及び取材させて頂きました。幼少年から高齢者まで広く剣の道を歩むための手本になることと思います。また居合道・杖道の活躍も盛りだくさんあり見逃せません。是非ご覧ください。このように多くの方々のお力を頂いて「轍」26号が完成しました。執筆してくださった関係者の皆様、誠にありがとうございました。

多くの方々からHPや轍をご覧になり、武道を愛し互いに高め合い、さらには次世代に大きくつながる一助となることを願って、委員一同運営に努力していく所存です。

皆様健康で、学業にお仕事にそして武道にてさらに躍進されることを祈念致しております。最後になりましたが、今後とも本委員会へのご指導とご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

事業委員会



事業委員長

三浦 典彦

委員長 三浦 典彦
副委員長 村上 賢史／佐藤 淳
委員 長谷 知治／阿部 豊
岩間 克寿

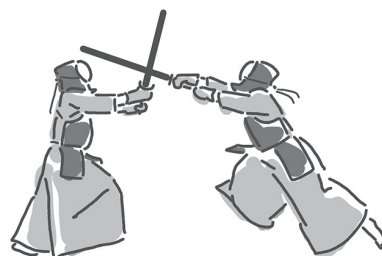
「迅速」「正確」そして「残心」

主催大会の運営を担当しております。コロナ禍で大会が開催できなかった時期もありましたが、年度計画の大会全てを開催できるようになりました。油断はできませんが潜む火種に警戒しつつ、大会の円滑な運営に臨んで参りたいと存じております。

その大会運営においては「迅速」な会場準備、「正確」な大会進行と諸事案発生に伴う適切な対応、「残心」大会終了後の撤収作業そして終了後は大会運営上の反省を行い、次回大会に役立てるように心掛けております。

結びに、出場選手の皆さんが安心して試合

に臨むことができる環境作りに、事業委員一丸となって邁進して参りますので、どうぞ剣友皆様のご協力をお願い致します。



令和6年度専門委員会活動報告

普及委員会



普及委員長
佐藤 裕一

委員長	佐藤 裕一
副委員長	佐藤 啓／相原 高志
委員	今野 透／鈴木 征也
	三浦 昇／小淵 俊江
	遠藤 一志／菅原 清輔
	金澤 賢司／伊藤 稔

普及委員会は、県内で実施される段位審査会、講習会等の運営に携わり、会員の普及に関する活動を行っております。

さらに、青少年の剣道人口調査を継続して実施しています。特に剣道人口の減少に関わる問題は、剣道連盟としても重要な課題であり今後も継続して取り組んでいかなければならないと思っております。その基本的な調査も本委員会の役割でもあります。

これまで、県内で実施された、段位審査会講習会等の運営を連盟の執行部とともに携わってまいりましたが、今後も会員の皆様のために、更に充実した内容になるよう努力してまいります。

今後も皆様のご指導を賜りながら剣道愛好家の裾野を広げていく活動をしていきたいと思っております。ご理解とご協力の程お願い申し上げます。



強化委員会



強化委員長
名生 伊智郎

委員長	名生伊智郎
副委員長	五十嵐裕子／齋藤 亮
委員	石橋 力／澤田 裕和
	武田 泰明／遠藤 稔正
	澤村 周司／古畑 健吾
	渡邊 哲也／五十嵐雅道
	田村 由希／加藤あゆみ
	佐々木和代

令和六年度の強化委員会の活動については、予定どおり順調に開催することができました。

特に国スポ選手等の強化については、月一回以上の強化練習会等を行い、選手の団結力等の強化を図りました。

七月には、北海道の古川和男剣道範士八段を招聘して強化講習会を開催するなど、例年になく充実した活動を行いました。

さて、令和六年度の主な成績ですが、東北総合スポーツ大会において、少年男子が第二位に入賞し、久しぶりの国スポ出場を果たしました。

国スポでは、成年男子、少年男子が出場し、共に一回戦で敗退となりましたが、次に

繋がる正々堂々とした立派な戦いでありました。

また、全日本剣道選手権大会では、県警の千田海選手が二回戦に進み、今回優勝した東京都の竹ノ内選手と対戦し、大接戦の末惜敗しました。

来年度は、今年度の各種大会結果等を踏まえ、土台作りの強化及び更なる競技力の向上を図るため各強化委員が持てる力を最大限に発揮して活躍してまいる所存です。

最後に、県剣道連盟の緒先生方をはじめ、多くの方々にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

今後ともご指導ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

幼少年普及委員会



幼少年普及委員長
千葉 弘勝

委員長	千葉 弘勝
副委員長	猪俣 三夫／瀬戸 信浩
委員	川口 精一／笹川 卓美
	佐藤 潤／長南 賢悟
	生田 恵子／佐藤 智美

幼少年普及委員会の活動内容は、宮城県の小学生の剣道普及と強化を目的として委員9名で活動しております。

幼少年剣道の普及では県内各道場の小学生とその指導者の人口調査を行い、地域性や指導者数を分析し、委員や各道場の先生方と意見交換をしながら少子化対策に努めております。

また、子供達に夢を与えようということで、宮城県少年剣道講習会を毎年12月に開催し全日本選手権や世界選手権で活躍した選手をお招きして直接ご指導いただく機会を設けています。今年度は、世界大会個人優勝、全日本女子選手権優勝の警視庁近藤美洗先生をお招きしました。近藤先生から直接ご指導をいただいた子供達は一生懸命受講し、少しでも身に着けようと目を輝かせていました。全国規模の大会で活躍されている先生の肌に直接触れて指導をいただいた

子供達には、自分も将来はそうになりたいという気持ちで目標を持って、今後の剣道修行に生かして欲しいと思います。

強化の面では、10月末の宮城県学年別個人選手権で上位入賞した四年生以上の学年別、男女別で選出された選手、約50名をジュニア強化指定選手とし、その選手を対象に強化講習会を6月、8月、3月に実施し、井上会長、高橋理事長の御指導のもと幼少年普及委員が指導し、毎年9月に行われる全国都道府県対抗少年剣道大会での上位進出を目標に強化を行っております。

最後に、剣道連盟の先生方を始め多くの先生方、保護者の皆様にご協力を頂きありがとうございます。

今後ともご指導、ご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

生涯剣道普及委員会



生涯剣道普及委員長
吉田 貴

委員長 吉田 貴
副委員長 千葉 忠洋
委員 田代 信子／盛島 明彦
関根 秀明

「活動の紹介と課題」

当委員会の活動に関しまして、平素からご理解とご協力を賜り、紙面をお借りして感謝と御礼を申し上げます。

さて、当委員会が設置された経緯は、平成24年に石巻市で開催予定だった「ねりんピック剣道大会」の選手強化を目的に、その2年前から始められた稽古会が始まりです。

平成24年6月「生涯剣道普及委員会」として県連の専門委員会に加えられ、以来、現在まで月1回の稽古会を開催しております。

参加対象者は、60歳以上の剣道愛好家で、各々目的は異なると思いますが、毎回20～

30人が参加し、和気藹々と剣友との融和と親睦を図りながら、技量・体力・年齢に応じた稽古に汗を流し、「生涯剣道」を体現しております。

稽古場所である「泉武道館」は、昨年新装され、冷暖房が完備されました。

恵まれた環境下での稽古会となっておりますので、剣友各位のご参加をお待ちしております。

今後とも、ねりんピック大会での上位進出を目指しつつ、事故防止、健康管理に十分配慮しながら、参加される皆さんに良好な稽古環境と稽古機会を提供し、生涯剣道の普及発展に努めて参りますので、関係各位のご支援とご協力をお願い申し上げます。

安全医事委員会



安全医事委員長
石橋 賢太郎

委員長 石橋賢太郎(整形外科医師)
副委員長 渡邊 哲子(内科医師)
委員 三浦 満(幼少年担当)
門前真紀子(中体連担当)
長谷健太郎(高体連担当)

安全医事委員会は医療の面から剣道競技者をサポートしております。主な活動内容は、各種大会における救護、および医療講習会を行って緊急時の救命措置とAEDの使い方を啓蒙しております。

試合での外傷は、コロナ以降のつばぜり合いの解消により、頭部外傷例はありませんでした。一方、アキレス腱断裂は毎年数名おられます。救急車を呼ぶような緊急性はありませんが、当日もしくは翌日に整形外科を受診してギプス固定をしてもらいましょう。断裂前と同じレベルで競技が可能に

なるのに一年弱必要となります。十分なストレッチとアップを行って身体が温まってから稽古、試合を行うように努めましょう。

過去に稽古中に心筋梗塞を発症された方がおられました。AEDが使用できない環境下でしたが、その場に居合わせた皆さんが懸命に心臓マッサージを行って運良く一命をとりとめました。

数あるスポーツの中で剣道だけが幼年から高齢の先生まで競技できる種目です。それ故に各年代に沿って医療面から支えてゆきたいと思います。

武道等支援事業専門委員会



武道等
支援事業専門委員長
菅井 吉秀

委員長 菅井 吉秀(コーディネータ)
副委員長 大野 剛(コーディネータ)
委員 細谷 正信(実技要請講師)
大場 啓伸(実技要請講師)

「オンラインで全国発表」

当委員会では、三年に一度の割合で中学校の公開授業を実施し、一昨年(令和五年)十月に鳴瀬未来中の協力を得、講師の細谷正信先生が授業を実施。当日は来賓として全剣連から軽米満世先生、県教委から大宮司保健体育安全課長、同遠藤主幹、東松島市志小田教育長等が授業を参観。授業の指導内容が模範的だったことや、事業の企画運営が適切であったこと等で、全剣連から「全国で紹介したい」旨の連絡が有り、令和六年七月にオンライン会議で大野剛コーディネータが全国発表を行って好評を得た。同年九月に大場啓伸実技要請講師が勝浦市の日本武道館研修センターにおいて実技研修を受けた際、本県の公開授業について紹介の要請が有り、全国の参加者の前で

紹介。その後、同年十月には富谷武道館を会場に、大場講師が勝浦での研修成果の伝達講習会を実施しました。全剣連からの資料は、中学校の教育現場を踏まえた適切な資料であることを申し添えます。

全国は、細谷正信実技要請講師による「剣道部外部指導者及び地域移行講習会」について、併せて実施し、夫々に「指導上の留意点」を詳しく説明していただきました。

中学校への授業協力者派遣は、東松島市、美里町に加え、昨年から石巻市、岩沼市で実施し、計六校に派遣しております。少子化や教育行政の事情で、学校の統廃合が余儀なくされ、派遣拡大にも大変難儀し、検討課題となっています。

女子委員会



女子委員会
五十嵐 裕子

委員長 五十嵐裕子
副委員長 味上 真紀
委員 小淵 俊江／保志 綾子
狩野喜代子

宮城県の子女子剣道の普及と活性化を活動目標に、これまで「女子剣道研究会」として活動しておりましたが、令和6年度より「女子委員会」として新たに専門委員会の活動とさせていただきます。

年5回の稽古会は、会場を固定せず様々な場所で、素振りや基本を中心とし、時々おしゃべりに花を咲かせながら、和気あいあいと行ってきました。

これまでの稽古会は、一般女性を対象としていましたが、第5回稽古会は、県内在住の全女性剣士が参加できる稽古会となりました。現在まで、剣道に携わってきた方、一度止めてしまったけれどまた始めようと思っている

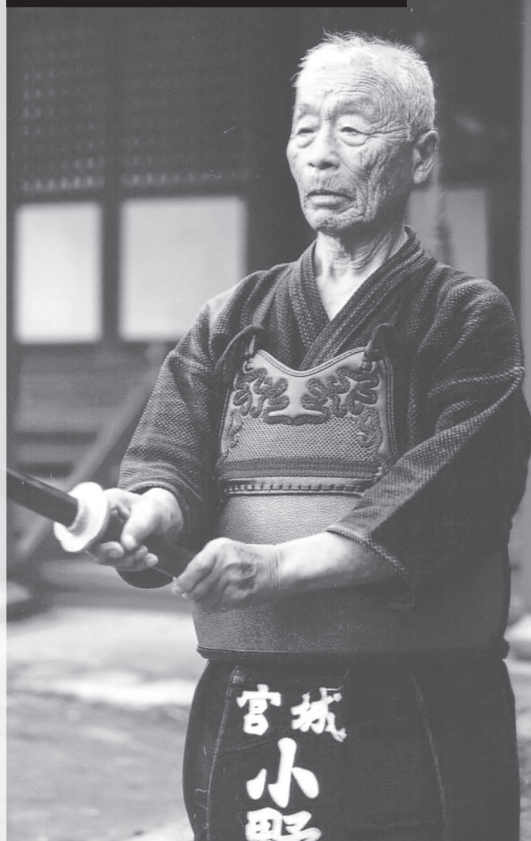
方(始めた方)など、県内には、剣道を経験した女性がたくさんおります。どのような環境にあっても誰もが同じように剣道を楽しめること、正しい剣道を身に着けることができればと思っております。

宮城県内の女性剣士が、一堂に会して稽古をすることで、互いの技術を高めたり親睦を深めたりしながら、女性剣道の活性化を図っていくことはもちろんのことですが、その在り方を考え、工夫しながら、今後も活動して参りたいと思います。

皆様からご指導ご鞭撻の程を、よろしくお願い申し上げます。

小野喜代男先生 宮城県最年長で七段合格

特集 生涯剣道



令和六年八月二十四日は私の人生の中で最高の一日でした。

同日、本山製作所青葉アリーナ（青葉体育館）で行われた全国剣道連盟主催の剣道七段審査会に於いて、幸運にも私が合格の栄誉をいただいたのです。私は全受審者の中で最高齢の八十五才。しかも初めての挑戦でした。受審に向けて東北高校、仙台市武道館、塩釜の一森山道場、石巻の湯殿山道場へ出向き、高校生、一般の先生方の稽古をいただと共に網地島（石巻の離島）の自

宅近くの神社で一人稽古を重ねていたものの、全く自信はありませんでした。又審査に於いても、自分が考えていた内容の半分も力を発揮出来ませんでした。それが「合格」。幸運としか言い表わしようがありませんでした。実技の立合いを終えて控えに戻り、当日私に付き添ってくれていた金善信先生（東北福祉大学准教授、剣道七段）、中林君（東北高校剣道部OB）に「駄目かも」と話していました。合格発表の紙が貼り出された時、私がためらったので、金

先生が見に行き、あたふたと駆け戻つて来て「合格ですよ」と満面の笑顔で私に握手を求めて来たのです。私は一瞬耳を疑いました。自分の眼で確かめようと合格発表の掲示の前に行き、合格の受審番号を見ると、確かに私の受審番号が書いてありました。「夢か」「間違いではないか」と何度も自問しました。同時に喜びと感激がどつと湧き上がって来て思わず目頭が熱くなりました。私が初めて剣道と出逢ったのは四十五年前当時国語の教師をしていた東北高校で剣道部の顧問に任ぜられた時でした。それまで一度も竹刀を握った事はありませんでした。「何とかなるだろう」と安易な考えでいましたが、いざ引き受けたものの素人の私は顧問とは名ばかりで、何の指導も出来ず、当時の部員からの信頼は全くのゼロでした。教師にとつて、生徒から「信頼も期待も」されない程つらい事はありません。顧問を引き受けて二年目に私は意を決して当時の部員達に「俺に剣道を教えてくれ」と頼み込みました。部員達は明らかに迷惑そうな顔をしながらも、竹刀の握り方、姿勢、足さばき、打突の仕方を教えてくれました。私は覚えが悪く歴代の部員諸君には大

変迷惑をかけました。以来、今日迄「吾以外皆師なり」と思い、「早く部員に追いつきたい」「一心で竹刀を握り続けました。私の剣道の師は歴代の部員達だと言えます。六段に合格したのは七十四才で六回も不合格を味わいました。福島、長野、山形、岩手、東京と審査会場を駆けめぐりました。不合格になって落胆をしながら帰りの列車の中で、「もう二度と竹刀を握るもんか」と毒づいていましたが、時がたつとその思いを忘れてしまい、またぞろ審査会場に向かつていました。

今回の私の合格は覚えの悪い私につき合ってくれた歴代の剣道部員諸君、未熟な私と剣を交え、指導下さった剣道の諸先生方のおかげで出来たものです。ありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。今や私にとって剣道は生きる指針であり、生きる支えです。剣の理合いも少しわかりかけて来て、剣道の奥を究めたいと強く思うようになって来ました。

今後は力の及ぶかぎり、自分の剣道の一層の向上と後進育成の一助に勤め、生涯剣道達成に努めたいと考えておりますので、御指導の程宜しくお願いします。

生涯剣道稽古会にて

AED研修

【特集】生涯剣道



八月十一日泉総合運動場剣道場において、シニア剣道稽古会の前に石橋賢太郎先生によるAED（自動体外式除細動器）の使用方法的講習会が行われました。まず、石橋先生による使用方法と注意事項について説明があり、実際にダミー人形を使って使用方法を学びました。その後講習会参加者の数名が実際に心臓マッサージとAEDを使用してみました。心臓マッサージでは、両

手で行うみぞおち上部の胸骨圧迫が予想以上に力があることや、救急車が来るまでに時間がかかる場合は二分に百回位と速いので一人ではなく交代しながらやる事が実感できました。また、心臓マッサージは脳への血流が滞らないようにするので、倒れたら早急に行わなければならないことを学びました。剣道において、どのような場合にこのような事態になるかというところ

心臓に急激な負担が掛かって血液内の酸素が急に不足するので、元に立っている場合はほとんど起きませんが、掛かりてになって先生に無理な稽古をしようとした場合におけることがあるそうです。無理な稽古は高齢者や心臓に障害を持たれている方は避けた方が良いでしょう。実際にAEDの体験をされた参加者がおられたのでお話を伺いました。

＊どんな状況で体験されたのですか？

「先ほど正に石橋先生がおっしゃるように、元立ちから戻って、先生に稽古をお願いした最初の瞬間から記憶がなくなりました。」

＊そういう状況で何が重要だともいいますか？

「あわてず、誰かが指示をしつかり出して即座に行動することが重要だと思います」

手順を簡単に書いてみました。皆で手分けをすることが必要です。

一、倒れた人の剣道具を外して、胴着をゆるめる。

二、救急車を呼ぶ。（今はスマホで動画を送るように言われてやるべきこと指示されるそうです）

三、倒れた人の呼吸と心音を確認し

て、スマホが無い場合はAEDを取りに行く。心臓マッサージを十回位行い、呼吸と心音を確認する。これをAEDを持つてくるまで行う。

四、呼吸と心臓が復活しない場合はAEDを使用する。

AEDの入っている箱に使い方が書いてあるので焦らずに。金属性の物を身に付けている場合は外すこと。

尚、最後に石橋先生から、普段から水分をしっかりととりながら稽古をしましょう、とのことでした。アルコールは水分補給にはならないので、飲酒する場合は先に水分をとってからにしましょう、とのことでした。



剣道稽古中に突然意識消失を起こしたら

1 ただちに駆け寄り、防具を外して肩をたたきながら大声で呼びかけてください。

反応がない、息をしていないと判断したら、すぐ心臓マッサージ開始します。

同時に周りにいる人に「救急車を呼んでください」、「AEDを持ってきてください」と指示します。

脳細胞は血液が来なくなると、刻一刻と回復不能なダメージを受けてしまいます。



2 胸の真ん中に手を重ねてのせ、肘を伸ばしたまま真上から強く押してください。胸が約5センチ沈むまで押さないと心臓のポンプ機能とが得られません。肋骨が折れても、救命行為なので罪に問われません。

圧迫を繰り返すとき、手を胸から離さないでください。1分間に100～120回のペースで押しますが、目安は「もしもしカメよ、カメさんよ」のリズムです。このペースですと肺も圧迫マッサージを受けるとになり、人工呼吸をしなくても酸素交換されるといわれております。



3 AEDが到着したら、電源を入れて電極パッドを右鎖骨の下と左胸下部に貼り付けます。AEDのバックを開けるとすべてイラストで手順と部位が書いてありますので、間違えることはありません。AEDが自動診断して、電気刺激を行う際には離れてください。



4 救急隊が到着するまで、誰でもできる救命措置です。待ったなしの状況ですので、ためらってはいけません。

5 剣道だけは他の競技と違い、高齢者になっても自分も相手も鍛えて楽しめる競技です。しかし、悲しいことに加齢による不整脈や血管の変性が少しずつ生じており、昔の言葉で「心臓発作」が起きてしまうことがあります。もしも!の時の手技を覚えておいて損ではありません。

安全医事委員会では、以上の内容で生涯剣道稽古会、クラブチーム(不老会)、太白区剣道連盟に人体模型とAEDを使用して講習いたしました。

以上、安全医事委員長 石橋賢太郎

特集 生涯剣道

宮城野区剣道連盟

剣道キャラバン隊活動報告

宮城野区剣道連盟では、剣道に触れる機会が少なくなった昨今、子どもたちが剣道という武道を楽しく知る機会をつくりあげようと、区内の児童館施設を訪問して伝統を伝える事業を計画し実施しています。参加した子どもたちが剣道の魅力や楽しさを知り、剣道をしてみたいというきっかけになることを願い活動を行っています。

令和5年度は、5か所の児童館施設にて実施し132名が参加。令和6年度は、7か所の児童館施設にて実施し、12月末時点で151名が参加しました。この事業をきっかけに、現在3名の児童が各団体の剣士になっております。

活動の様子を報告します。

- 1 剣道キャラバン隊と親しみやすい名称にしてチラシを作成
- 2 宮城野区剣道連盟のHPにキャラバン隊のページを作成
- 3 児童館へ流れが分かるように、打ち合わせシートを作成して活用していった
- 4 剣道キャラバン隊の台本を作成して進行する
- 5 本活動の流れ



- 1 新聞紙で 面と剣を作ろう (東部児童館)

『アドバイスを受けながら 丁寧に作成していました。』



- 2 打ち方の 模範を披露 (西山児童館)

『迫力ある気合いと打突にみんな注目!』



- 5 おわりの あいさつ

- 4 竹刀で 面打ちを 体験 (新田児童館)

『緊張しながらも面を打つことができました。』



- 3 新聞紙面と剣で、友達と打ち合いっこ (高砂児童館)

『張り切って打ち合い合戦!』



6 活動のまとめと課題

遊びを通して剣道を知って頂く良い機会となった。児童館も午前中のイベントとして組み入れて頂くことが出来た。子どもたちは、貴重な年代交流や日本の文化を学びつつ、裸足で大きな声を出して昔ながらの遊びができると、好評を頂いた。今後とも宮城野区の伝統文化活動として毎年児童館を回り、剣道キャラバン隊を定着させていきたい。

今後の課題としては、活動する日は児童が長期休業日となる中の平日が多く、これに沿うようなスタッフが不足している。改善を図るためには、学生や現役を卒業した剣道指導者へ広く投げ掛け、活動の理解と協力が得られるように進めていきたいと考えている。

令和6年度中央審査会

令和6年 4月30日	京都市体育館 七段 鈴木 昌幸
5月 6日	京都武道センター内武徳殿 教士 千葉 幸司／大山 洋平／佐々木伸也／堀内 彰大／今野 幸大 小野良一郎／笹野 義博 錬士 渋谷 隆範／伊藤 稔／安岡 諒治／門田 勝弥／鈴木 克範 長谷 知治／大場 悦子
5月11日	名古屋市枇杷島スポーツセンター 七段 小沼 悠
5月19日	北海道立総合体育センターサブアリーナ 六段 菅原 賢悟／櫻井 勇輝／牧野 研 七段 濱西 伸治
8月24日	本山製作所青葉アリーナ 七段 海藤 靖和／氏家 克治／佐藤 敬太／高橋 友子／丹野 伸也 石橋 政実／本田 義人／大久保孝司／齋藤 浩／岩瀬 孝吉 相澤 俊夫／菊地柳太郎／小野喜代男
8月25日	本山製作所青葉アリーナ 六段 齋藤 拓也／千葉 達也／昆野さやか／雪田 浩人／佐々木友之 佐藤 友紀／小森 雅志／日下 哲也／阿部 恵太／松崎 翼 蔭山 直樹／山路あや子／佐々木嘉晴／佐々木 博／小野寺洋樹 川野 建二／渡邊 考一／曾根 孝浩／鹿野 智／佐々木 祐 佐藤 誠之／河西誠一郎／志賀美智子／田中 秀明／遠藤 清文 佐々木健郎／千葉 隆幸／高垣 弘人／岩間 正昭／工藤 雅照
11月09日	名古屋市枇杷島スポーツセンター 七段 安達 浩晃／佐々木 裕／石黒 和昭／伊藤 勇喜
11月10日	名古屋市枇杷島スポーツセンター 六段 鎌田 克裕
11月14日	エスフォルタ八王子 六段 新沼 智将／氏川 尚樹／千葉 正道／加藤 司／佐藤 広樹 高瀬 卓弥／平木 伸男／小野寺 昭／板橋 英樹／横山 元 大宮司昭倫／後藤 延好
11月15日	エスフォルタ八王子 七段 中條 学／大江 裕／佐藤 光英／佐々木重義
11月26日	日本武道館 八段 高橋 昭博 教士 金澤 賢司／大嶋 智彦／佐藤 潤／高橋 一美／伊藤 雄介 熊谷 輝人／上野 昌行／八嶋 克洋／小淵 俊江／菅原 主昭 錬士 三浦 晃仁／千葉 明／長南 賢悟／佐藤 晃／及川 成美 星 亘／大内 崇／小林 房雄
令和7年 2月15日	小瀬スポーツ公園武道館 七段 生田 勇作
2月16日	小瀬スポーツ公園武道館 六段 柴田 政彦